

さざなみ

須崎市教育研究所 発行
第3号 令和6年6月17日

学校訪問

毎年、市内全ての小・中学校を訪問して全ての学級の授業を参観し、学校の管理職・研究主任と協議をしています。今年度は主に教育委員4名・教育長・教育次長・学校教育課長・指導主事2名・研究所所長・研究教諭・須崎市学校事務支援室2名、計13名で伺っています。目的は、各学校の教育計画や取組等に関する情報を知り、それについて教育委員会として対応や支援ができること等について話し合うことです。



子どもたちは明るく意欲的に授業に臨んでいました。また、昨年度よりも多くの学級でICT機器の活用が浸透しているように感じました。特に、教師—児童(生徒)間のタブレットでのやり取りから児童(生徒)—児童(生徒)間のタブレットでのやりとりが多く、多くの場面で見られるようになってきました。個人としてではなく、学校としてタブレットの活用を進めてきた成果ではないかと思えます。



今年度は、市の独自の目標設定にも「個別最適な学びの実現」が挙げられています。まだまだ未知の部分が多いですが、本研究所としても積極的に研究を進めてまいりますので、個別最適な学びを意識した授業をやってみようと思われている先生、一緒に取り組んでくださる先生がおりましたら、是非研究所までご一報ください。よろしくお願いいたします。

第1回交流事業

5月31日（金）に令和8年度に統合を予定している中学校の1年生を対象に、スムーズな統合を目指して交流事業が行われました。私はその中でグループエンカウターの部分を担当させていただきました。（構成的）グループエンカウターとは、集団での活動<エクササイズ>を通して、本音と本音の交流や感情交流<シェアリング>を促し、自己発見による行動の変容と人間的な自己成長を期待する取組です。今回は、失敗しても大丈夫な雰囲気・他者との違いを認め合える雰囲気を目指して、テーマを「『失敗』や『違い』を楽しむ」としました。以下は活動の流れです。

- ① 手たたきGO！：意図する人数のグループを作りつつ、集団の雰囲気を探る。

教師の手拍子の後に続けて手を叩く。途中で「GO」と言われたら、それまでに手を叩いた回数分の人数でグループを作って座る。

- ② 前後左右：失敗することを楽しみ、グループをほぐす。

内側を向いて輪になり、手を繋いで指示通り前後左右のいずれかの方向にジャンプする。

「教師の言う向きと同じことを言い、言われた方へジャンプ」

「教師の言う向きと逆のことを言い、言われた方と逆へジャンプ」

「教師の言う向きと同じことを言い、言われた方と逆へジャンプ」

「教師の言う向きと逆のことを言い、言われた方へジャンプ」

- ③ あなたはどっち？：考え方の違いを楽しみ、もっと知りたいという気持ちを育てる。

選択に悩む2択の質問に理由をつけて答え、その答えを共有しあう。



（構成的）グループエンカウター自体は初めてではないのですが、ほぼ初対面の集団だったということもあり、十分に子どもたちの感情を引き出すことができなかった部分もありました。それでも、最後まで楽しんでくれている様子が見られたのは、各校の先生方のおかげだと思います。ありがとうございました。